

日本輸出陶磁器の動向(二)

杉 山 精 一

五、陶磁器輸出港

本邦陶磁器は前述の如く年々躍進を續け昭和九年には輸出四千百萬圓を突破し、日本重要輸出品の第七位にあつて、輸出額の八割以上の三千六百萬圓は名古屋、四日市兩港より出された。昭和九年一月―五月迄の各港の陶磁器輸出價格を對比するに

名古屋港	一〇、三二八、四六六圓	八割強
四日市港	二五五、八三八	二分
神戸港	一、〇八四、一四二	八分
門司港	二九五、五四九	二分強
横濱港	一〇七、二六一	―
大阪港	一九八、一六七	―
長崎港	八、八一四	―

名古屋港は全體の八割強に當り第一の輸出港

の貫目を備へ神戸港の入分、四日市、門司兩港の二分の順である。

最近の輸出數量及價格は左表の如く

年次	本邦輸出		本邦輸出	
	總額	四日市輸出額	總數量	四日市數量
昭和四年	五、六三、六五〇圓	三、六〇、八三三圓	三四、〇五五噸	二五、六八八噸
同 五年	二七、七二、二五五圓	三、四八、八八九圓	二九、四三三噸	二六、六六六噸
同 六年	一九、三〇七、四九〇圓	二、九四、三九九圓	一五、七、六四〇噸	二八、七三三噸
同 七年	三、九七、〇六六圓	一〇、三三、九三三圓	七、七、七六四噸	二〇、三四四噸
同 八年	三、三三、三三八圓	三、〇〇五、九四三圓	四〇、八、六五五噸	三七、四七七噸
同 九年	四、八七、四四二圓	五、三六、〇〇〇圓	四九、三三三噸	三九、八〇二噸

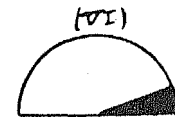
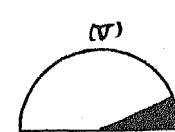
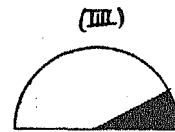
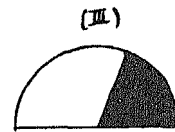
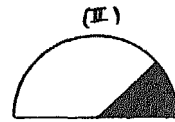
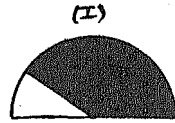
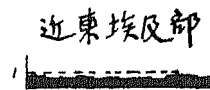
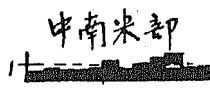
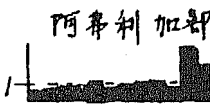
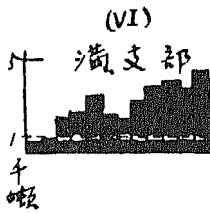
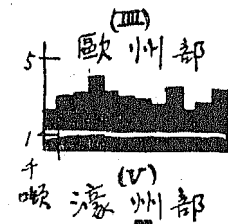
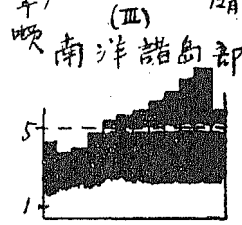
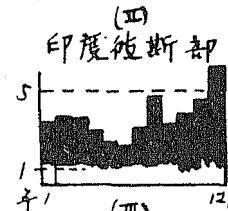
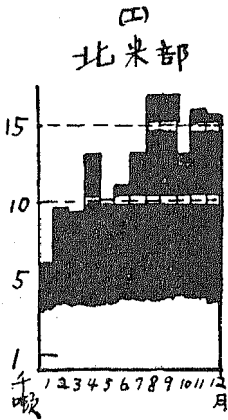
(概算)

名古屋四日市兩港の輸出額は全體の八割より九割迄の間にあつて昭和八年中の兩港に於ける

第五圖

昭和八年
中日
名古屋
四日市
兩港
陶磁器
輸出
數量
別
部
別
計

日本輸出陶磁器の動向



各組合別の輸出總量を表すに次の如し。
名古屋組合地區内業者 二七七、〇三三噸
神戸組合地區内業者 六一、五五一

七割四分
一割六分

大阪組合地區内業者 二四、八〇一
東日本組合地區内業者 八、〇九三

三七一、四七七

七分
三分

遠隔地の他の組合より陸路で輸出全體の約1/4が聚集するといふ事實を見る。

更に兩港の各地方別の輸出數量は第五圖に示すが如く北米部は四割、印度波斯部は一割一分南洋諸島は一割九分、歐洲部は八分、濠洲部は八分、滿洲、支那部は七分等の割合である。

六、北 米 部

(イ)亞米利加合衆國

貿易狀況 米國は面積七百八十四萬方籽人口一億二千四百萬人の大國で大平洋を隔て、日本と相對し世界に於ける有數なる輸入、輸出國である。日米貿易狀況は左の如く

明治六年	千圓	明治三十五年	千圓
十	五、三三	四十	三三、一〇一
十五	一四、三〇	大正元年	一六、六〇八
二十	三二、九六	六	四、七五九
二十五	六、六五	十一	三三、七五
三十年	五、四五	昭和六年	五七、六九
		八	一、二三〇六

明治の初に僅かに四百二十二萬圓のが大正の

初めに一億六千八百萬圓となり更に昭和八年に十一億一千萬圓となつて益々飛躍増進を示す。

需要狀況 米國の陶磁器工業は發達はしてゐるが、他國より陶磁器の供給を受けてゐる。國內生産を見るに一九一四に三千五百萬弗を、その内譯は

赤色土器	一九一四年	一九二五年
石 器	一、〇六〇	二、六三二
白色クリーム色準磁器	三、三四九	四、三四九
磁 器	一四、九六八	三二、八一六
〃 (電氣用)	二、三八五	九六七
〃 (化粧室、風呂場用)	四、一三〇	二一、八二七
サガ	—	二五、〇三六
	—	一、七六四

で磁器製造の主なるものは、Homer Langin China Co., Newell W. Ya. & Taylor & Knowles Co., East Liverpool Ohio 等で尙千六百萬弗を輸入してゐる。更に一九二六年に千九百二十八萬弗、一九二七年に二千二十萬弗、一九二八年に千六百七十萬弗の輸入に及び磁器は卓用化粧

臺所用、白及無地、彩色並裝飾用飾付、白磁器等で陶器は無地、彩色、裝飾用飾付等でその内着色磁器は全體の五割着色陶器は二割以上に當つてゐる。一九二九年の米國着色陶磁器輸入主要國別の内譯は次の如し。

	磁器		陶器	
	數量	價格	數量	價格
日本	五、四七七、九三三 ^打	九六、二〇五 ^部	一、五二、四七七 ^打	九〇〇、五〇〇 ^部
英國	一〇一、〇四〇	二、九六、八八〇	一、三三、八七	二〇〇、〇〇六
獨逸	二、三四、〇七三	三、九六、二〇五	九三、五〇〇	六九、七七
致須	五四八、二二三	五、四〇、二五一	一、二九四、二四	二七三、五七
フランス	三九、九三三	七三〇、八四六	和蘭、八七	一九三、九三
總計	八、八六六、七四三	八、九一、六九九	四、七二四、五八	四、九三三、九三

一九二九年の本邦陶磁器輸入額四百四十萬弗で前年に比べて約一割五分の増加を示し、近年食器も極薄よりも少し厚味と澁味を帯んだものゝ需要が多い。磁器は日本品が輸入第一を占め總額の三割八分に當り、獨逸品が二割五分で第二位、英國、佛蘭西品は各一割づゝ、陶器は日

日本輸出陶磁器の動向

本品僅かに總額一割であるに反し英國品は約四割で第一位、獨逸品の一割九分で第二位、日本は第三位である。かように米國へ輸入される磁器は英、獨、伊、日、致の五國、陶器は英、獨、伊、日、致の五國に依て占有され、日本品の地位は磁器が總數量の六割一分に相當するが價格は三割八分に過ぎず、陶器は數量は全體の三割二分價格一割三分といふ割合で、これは磁器平均輸入値段が六十四仙の安値である結果に因るもので、英國の九十六仙、佛の四弗四十四仙に比べてその差が大であり、陶器に於ても日本品一打平均六十仙に比べ英の一弗六十仙、獨の九十九仙、致の九十三仙は前同様に差異が大きい。かくる安値の日本品は十仙均一店向の物が多い故かく平均値の低下を來たしたのである。

日本品はかく安格なる故他國品に比べて進出増大する程白眼視され、一九三〇年米國關稅改正に關する「ホールレーズムート」法案が六月十五日より實施され、輸入稅率の引上のもの八百八

十種、引下げのもの二百三十五種で陶磁器の如きは從來の從價税の上に更に從量税を附加された。

磁器	現行從價税	從量税(一打ニツキ)
裝飾なきもの	六割	十仙
裝飾あるもの	七割	十仙
陶器	四、五割	十仙
裝飾なきもの	五割	十仙
裝飾あるもの		

我が當業者は甚大なる打撃を蒙つたのである。翻つて米國陶磁器工業は一九一四年に生産額三千五百萬弗、一九三一年一億百七十萬弗の驚異的の増産をなし實に三倍の増加を示し、又飲食器類を見るに一九一三年に二百八十八萬弗のが一九二〇年の好景氣時代に四千九百六十六萬弗で約十二倍となり、一九三一年に二千七百十三萬弗に減少して、約四割五分の大激減を來し、生産能力の約五割五分を活動せしに過ぎない状態で經濟困難となり、製品の價格は益々昂騰を來し、日本より低廉なる競争品に對して何等施す術なく、米國製陶地、オワイ、ウエストバードニア、ペンシルベニヤ、ニウジャージーの四

州に渡る賃金値下に對するゼネストは漸く避けたるも、原價切下運動となつたが、日本品は關稅障壁を乗越へてどん／＼と進出するから原價切下が合理か否かと論議されるに至つた。日本品の進出は(食卓用及臺所用品の輸入表)

	一九二九年	一九三一年	一九三二年
日本	四、五三、五〇〇	一、九〇、〇〇〇	一、一四、〇〇〇
獨逸	三、九七、〇〇〇	一、四九、三〇〇	八七、五九九
致須	六八、〇七	一七四、三〇〇	三〇、四九九
佛國	六三、六三	二〇、六三	一〇四、四三
英國	三、七六、九三九	一、五四、三三七	八四、三三
其他	九〇、七五	二七、五〇	一七、五三
合計	一四、六一、九五三	五、七七、〇〇〇	三、三三、七三

右表で見ると常に第一位を確保し、一九二九年に四百五十二萬弗より一九三二年には百十四萬弗の不振となつたが總額に對し三割八分より四割へと二分の増進を示し、第二位の獨逸品は三百九十八萬弗より八十六萬弗へと大減少を致し、二割七分より二割へと落ち、英國品は三百七十八萬圓より九十九萬弗へと轉落し二割七分

より二割一分へと減じ、日本品を除いた他國品は輸入割合が悪くなつて來た。

米國政府は國內産業の恢復を促進し公正なる競争を助成する目的を以て一九三三年六月に米國産業復興法が布かれた、これは極端な産業統制法であつて産業の再建復興を行はんとするもので米國の被傭者階級を味方に一大復興(NAB)運動が始められ、その初歩として現行の青鷲運動となり一般的産業統制法典が(同年七月二十五日)制定されたが、政府は内容に關して各産業團體に起草せしめたるに日本品に對して特に關稅引上、附加稅の賦課、輸入制限に關する非常手段を適用せんとした故國際上不穩當と認めコード會に附することにした際米國陶業者は日本品が米國品を如何に壓迫してゐるかを統計上より指摘し、かゝる低廉では如何に現行率の五割まで引上ても防止の目的に達しないと泣き言を云へり。

一九三二年一月—四月 磁器
日本より輸入 打〇、二六五弗 陶器 打〇、三二〇弗

日本輸出陶磁器の動向

外國より輸入 打一、四〇〇

一九三三年一月—四月 磁器

日本より輸入 打〇、一九〇弗 陶器 打〇、二一弗

外國より輸入 打一、三五〇 打〇、八三

日本爲替益々低落したため、輸入に拍車をかけ、一九三三年に千四十四萬圓で前年に比べて四百萬圓の増加、一九三一年に比べて三百八十一萬圓の増加となつて米國陶業者をして顔色無からしめ、米國政府は徹底的に日本商品の輸入禁止法を制定せんとし、米國産業界は「日本に於ける低廉労働と巧妙なる爲替ダンピング政策による米國への經濟的侵畧は既に再三、ル大統領によつて斷行された關稅引上のみで到底防止し得ずとし、今回從價稅を生産原價のドル價標準となすべし」の案を出し、日本安價輸入品に對し「不正競争」「ダンピング」といひ産業復興法第三條の輸入制裁の條文の下に保護を陳情し、大統領も之を受理し、抜打式に苛酷な禁止的手段が採られる傾向となつた、此に於て早くも緩和對策となり、日本陶磁器聯合組合は米國輸出

標格統制の手段となつて競争最も激甚で米國陶業者が脅威してゐる左の入種目の最低値段を決定して、一九三三年十一月一日に統制し、一九三四年一月一日更に價格三割方引立實施し、尙五月一日より二十二品目を追加し目下統制實施中である。

八種目及二十二品目は左の表の如し。

統制品	品目	大函統制値段段	最低裸統制値段段
①	オーバイト碗皿 (テ、サイズ)	白無地 八五錢	六九錢
②	〃	畫付品 一〇〇	八四
③	セントデニス(中玉)	白無地 八五	六八
④	〃	畫付品 一〇〇	八三
⑤	〃 (大玉)	白無地 九〇	七〇
⑥	〃	畫付品 一一〇	九〇
⑦	グレルプレート上口 (底上釉付)	筋入又染付 三六〇	三二三
⑧	〃 並口(底上釉ナシ)	〃 二八〇	二四三

米國向輸出統制追加品二十二種(主なるものみ掲げる。)

統制品目	單位	大函付最 低値段段	最低裸 値段段
土瓶二合	打	一〇五錢	七五

〃 五合 二五五 一九五
 シュガークリーマー 組 二一 一五
 八時半皿 打 一一五 一〇〇
 九吋スープ皿 〃 一三五 一一五
 五吋フルーツソーサー 〃 四一 三五
 六吋オートミル 〃 五七 四八
 八時半サラダボール 〃 一五八 一三八
 十七ピーススコヒーセット 組 六〇 五〇
 十七ピースティーセット 〃 九二 七二

輸入品マーケティングに關し關稅法第三〇四條に規定して公布してゐるが、全輸入品に之を實施し、使用文字—英文字、方法—マークスタンプ、ブランド又はレットルを附し著名都市なる時は國名に代る、時期—輸入の時。

米國向本邦品は輸出統制成就した結果、米國に於て本邦品の市場の亂調子が治り品質向上となり益々名聲をあげ販路擴張に導き且つ不平も餘り聞えなくなつた。

最近四ヶ年の陶磁器の活躍は左の如し。(通商局發表)

	數	價 格
一九三一年 磁器	一、五八七千打	一、五四六千弗
一九三二年 磁器	三、〇六〇	五三九
一九三三年 磁器	三、七一八	八二九
一九三四年 磁器	一、二四八	三一四
一九三五年 磁器	四、九六〇	一、二六九
一九三六年 磁器	二、三四三	六八二
一九三七年 磁器	五、二〇三	二、〇五五
一九三八年 磁器	三、〇一三	一、一二五

取引状況 日本陶磁器の輸入取引状況を見るに之を桑港、紐育、市俄古、ニューヨーク地方の四大別にして考ふるに

桑港地方は輸入品の半數は森村組によつてなされ、他は一般業者によつてなされ、圖示すると次の如くである。



日本品は中等以下のデンナーセットを初とし茶呑み、茶瓶其他日用品花瓶を主とし、食器は主としてセット又打、裝飾品はピース(個)を單位とし標準物は種類用途千差萬別であるから定

日本輸出陶磁器の動向

つた物はない。

紐育地方は全國の五割の輸入であつて取引は米國輸入業者特約一手販賣であつて米國商人に開放販賣である。

單位は打、箇、哥、組、箱で標準物一定せず、しかし食器用品は普通十二人前を「百箇揃へ」と云ひ一組となし呼値を建てる。市俄古地方の輸入状況は

シカゴ輸入業者—卸業者—小賣業—消費者で單位は同一でなくグロースの單位が最も多い、標準物はない。當地は大陸の中央部にある故シヤトル、タマコ、桑港、紐育、バルチモア等で陸揚後鐵道で運ばれる。

(ロ)加 奈 陀

加奈陀は我國に對し多年大出超國で一九三三年には我が國は輸出六百五十八萬圓、輸入四千六百八十九萬圓で約一對七の絶對入超を示し、一九三五年には三ヶ月間で既に一對一〇の割合である。カナダが實施せる爲替タンピン税並屢

々關稅引上等暴戻なる公定相場制度は本邦對加奈陀輸出を全く激減させる結果に陥つたために年々輸額は轉落してゐる。

加奈陀陶磁工業は見るべきものなく主なる工場は St. Johns (ケントック州) Hamilton (キック州) Redcliffe (アムバータ州) で煉瓦製造を主とし、陶磁器類は安物の湯呑み、珈琲碗類粗悪の陶器或は高壓碍子等で生産は一九三二年には二十五萬弗である(他に十三ばかり小工場あり)。従つて食器類は外國より供給されるので加奈陀市場の各國競争状態は

	一九二二年	一九二三年	一九二五年	一九二六年
英國	二,五七二,六六弗	二,一〇一,七五弗	二,五〇四,五三弗	二,四八五,〇〇弗
致須	一,八七五	五,六六	九,九〇一	一四,一三三
佛國	一,五九,九五	二,三六,八三	一七,三三九	一七,一六二
獨逸	二,一四六	八,〇〇九	三九,九三〇	五七,〇〇九
日本	五,三七一,九五	三,六六一,二二	一〇,五,一三〇	二九,一,〇〇一

日本商品は格安に於て獨逸、致須と争つたが品質稍劣るの之意匠拙き故大戰後の成績は前表

の如く次第に市場より追はれた態である。即ち日、英は共に減少を示し特に日本は半減の慘さであるに比べ佛國は一割、致須は四十五倍獨逸は三十倍の増進で新興工業の面目を躍進したるが、一九二九年後は逐年輸入額遞減、これは不景氣の深刻なる所以で五年間に四割以上の激減をなし、英國を除く他の歐洲諸國は市場より驅逐され恢復の見込が立たない、是は一九三〇年の關稅改正、爲替不利に基くものと思はれる、この關稅改正が英國經濟ブロックの日本品に對する極端なる壓迫をなして日本品輸入防止を表す。

日本品、英國品の差別的課稅は次表で明白で特に食器類の如き英國品のみ特惠稅率を設けた。

稅 番	品 目	日本品 課稅率	英國特 惠稅率	日英課 稅差率
二八四	陶器土器 (陶器土器)	三、二五 ^割	二、一五 ^割	〇、七五 ^割
二八五	陶土製モザイク タイル	二、七五	二、〇〇	〇、七五

二八六	陶土器石器(大瓶、カクハンキ)	三、〇	二、五	〇、五
二八七	磁製半磁器製品(食器)	三、五	無税	三、五
二八八	陶土器石器(彩色裝飾セルモノ)	三、五	二、五	一、〇
二九五	粘土製器(パイ、ガニスター)	無税	無税	ナシ
七四三	磁器(銀加工用)	二、〇	一、五	〇、五

又英加通商協定をなし、英本國より全輸入の四割まで特惠關稅を課し、更に見積年額八百萬弗に達する品目を無税とした。日本品は此等の差別的の關稅壁を乗り越え爲替安の援助の下に加奈陀市場に猛烈に進出し、遂に英國品と日本品とが市場を二分した状態になった、その成績は次の表で明白となる。(食器用品輸入表)

日本	四〇、九四〇 <small>弗</small>	三九、三三三 <small>弗</small>	二九四、八四四 <small>弗</small>	三七、〇六一 <small>弗</small>	三三、八八六 <small>弗</small>
英國	二、六六、三〇八 <small>弗</small>	四六、九三二 <small>弗</small>	三、八、二五二 <small>弗</small>	一、八〇、三三三 <small>弗</small>	三〇、七五七 <small>弗</small>
其他	一、三〇九、一六一 <small>弗</small>	一、〇五、三三九 <small>弗</small>	四三、七七一 <small>弗</small>	二九、〇〇五 <small>弗</small>	一〇〇、四三〇 <small>弗</small>
合計	四、四四、三二二 <small>弗</small>	三、八、五三三 <small>弗</small>	三、八、五三三 <small>弗</small>	二、六六、三〇八 <small>弗</small>	三、〇、五五九 <small>弗</small>

日本品は總輸入額の一割三分になり第二位を占め、英國品は七割一分でその開きが大きい。

日本輸出陶磁器の動向

日本より輸入される陶磁器は高級品に於ては英國品に比べて何等遜色は無いが、中流以下の安物はその種類の多きこと各國中第一位を占め價の安きこと到底他國の追隨を許さない、英國品は上流向の品物が多い。

取引狀況 内地に本店を有する輸入商の手で生産地の買付代理店を通じて直接輸入され、輸入業者は卸商をも兼ね直ちに消費者へと渡し、仲間の商入が無い。

單位は食器類(皿カップ、ソーサー)は打、(デンナーセット、チーセット)は組、茶碗類百箇一揃、便器、洗面器は一箇等を用ひ標準物は無い。

七、英領印度彼斯部

(イ)英領印度

貿易狀況 英領印度は面積四百六十七萬方呎三億五千萬人を包括する廣大な農業國である、從て貿易も農産物の小麥、綿花、黃麻、種子等を主な輸出品とし、工業品は外國より輸入してゐる。日本との貿易は大戰に依り歐洲品の輸入杜

絶したため印度國內に工業が急激に發達したが尙充分でなく、日本が唯一の供給國で貿易額も飛躍し、日本より輸出は戰前(一九一三)に六十二萬ルビーで戰後(一九二〇)には百八十四萬ルビーになり約三倍の増加を見たが、英國は戰前印度貿易の六〇%を占めてゐたが大戦により地盤を失ひその恢復のために努力し、亦他國も戰後工業の復興により、印度は歐洲品の洪水で本邦の輸出も一伸一退なりしが一九二五年三百四十八萬ルビーとなつて黄金時代を呈し、一九三〇年世界的不景氣により急に萎縮、一九三一年百六十七萬ルビーに轉落し、一九三一年には英國金本位停止、磅下落のためやゝ復活し、一九三二年、三百十五萬ルビーに増加し英國をして驚かしめた。英國はオタワ協定により日本品の防遏策を立て英品のみの特惠率を設けて貿易の進展を計りしが日本品の進出著しく印度は常に邦貨で約一億圓の出超であつたが、遂に輸入三億九十三萬圓輸出一億九千萬圓差引、七千百六

十三萬圓の入超となり日本への原料供給國が本邦品の販賣市場と逆轉し英國は脅威の餘り「ダンピン防止」の名を藉りて一九三三年四月十五日産業保護法制定と同時に施行に障害ある過去三十年の歴史ある日印通商を廢棄し十月十日限り失効すべき旨を發表せり、日印會商となり同年九月より印度シムラに於て日印、日英、兩政府、民間代表の會商が開かれた。

需供狀況 印度の土人は皿、茶碗に至るまで眞鍮を用ひたが歐洲大戰により歐洲よりの輸入杜絶のために陶磁器の需要増進を來し、一九二一年に八十三萬圓が一九二六年に三百九十三萬圓、一九二九年には二百五十五萬圓となり一九三一年には百三十九萬圓に下落し、一九三二年には三百四十六萬圓と再び好調になり飛躍をつけてゐたが、一九三三年關稅改正案を實施した故、日印會商となり雜貨の關稅を如何に定むべきやに當り、日本政府は簡單に印度の希望したる從價稅を從量稅となすことに同意したがそ

印度改正稅率一覽表

課税品名	新從量稅 1933, 12.23	改正新稅率 容量品目	1934, 2.15
㊸ 珈琲碗皿	RPS 0-15-0 (¥ 1.17)	① 7 オンス半以上 (二六中玉以上) ② 7 オンス半以下 (二五以下)	RPS 0-15-0 (¥ 1.17) RPS 0-6-0 (¥ 0.46)
㊹ 土瓶	RPS 3-0-0 (¥ 3.744)	① 20 オンス以上 (三合入以上) ② 20 オンス以下 10 オンス以上 (二合土瓶) ③ 10 オンス以下 (一合半土瓶)	RPS 3-0-0 (¥ 3.744) RPS 1-8-0 (¥ 1.872) RPS 0-12-0 (¥ 0.936)
㊺ 砂糖入	RPS 1-8-0 (¥ 1.872)	一 律	RPS 0-12-0 (¥ 0.936)
㊻ 乳入	RPS 0-12-0 (¥ 0.936)	① 10 オンス以上 ② 10 オンス以下	RPS 0-12-0 (¥ 0.936) 從價 30%
㊼ 皿類	RPS 1-0-0 (¥ 1.248) RPS 0-10-0 (¥ 0.78)	① 直徑 8 吋半以上 ② 直徑 8 吋半以下 5 吋半以上	RPS 1-0-0 (¥ 1.248) RPS 0-10-0 (¥ 0.78)

の當時たゞ日本金輸出禁止前の市價に回復することを私的會見に於て約したるに英印政府は口約を無視して一月末に改正稅率に洩れたる雜

日本輸出陶磁器の動向

土瓶、砂糖入、乳入、コーヒー碗皿、肉皿、ス
ープ皿を供給してゐたが日本品侵畧のため、そ
の打撃を蒙ること甚大で、市場の復活のためオ

貨全般に對し特に本邦の獨特品たる陶磁器
(井類)に對し高率なる關稅を課するに至つ
た。改正關稅率は上表の如くである。
會商二年三ヶ月を費して綿布糸に限り圓
滿の解決に見えたが九千萬圓の雜貨は死滅
に導いた結果に終つた。一度關稅引立發表
されるや、印度取引は大混亂に陥り積出中
止、取消し、新注文皆無といふ慘狀となつ
た。

翻つて英國政府は國內産業保護と見せて
ゐるが印度陶磁器工業は、甲谷陀のベンガ
ル陶磁器製作所、グワリオのグワリオ陶
器株式會社で電氣具、人形、玩具、タイル、
ジャー、高級家庭用器具を製造してゐるに過
ず外國より輸入する額に對し僅かに生産額
七%に及ばない、實は英本國は多年印度へ

タワ協定も無關心で英國の有利な前記の土瓶コ
ーヒー碗スープリ皿等のみを計上してゐるが印度
には此等の物を製する工場は無い。關稅改正施
行當時は二、五割より三割となり現在では更に三
十割まで引上を行つた。英國品は高級品並びに
硬質陶器皿類に對し本邦品は磁器、カップポー
ル類等でその後漸く落ち着を見せてより本邦品
のカップ、テイセツト類の如き需要甚だ増加し
恢復の見込み十分あり。印度に於ける市場の價
格の差を見るに

英國現在卸値 日本現在卸値 差

白無地	十吋× 一吋半皿	留安 四圓	留安 四圓	留安 四圓
	十吋肉 皿	留安 四圓	留安 四圓	留安 四圓
		留安 四圓	留安 四圓	留安 四圓
		留安 四圓	留安 四圓	留安 四圓
		留安 四圓	留安 四圓	留安 四圓

肉皿は六安の差である故競争困難なるも珈琲
碗類は

白無地十角碗皿	四一八、約五、二〇〇	留安 四圓	留安 四圓	留安 四圓
ルリプチニ五湯吞	九一〇、一一、二三〇	留安 四圓	留安 四圓	留安 四圓
開き値が大きいから需要は充分である。				

カルカツタ地方で最も多く需要されるものは
二三立菊クロバーの外に湯吞、ミントン、腰捻
其他仰向燒各種及薄碗等である。土瓶類は日本
品で白無地五合で四一、二、五、五九、栗色土瓶
三、四、五合取合で四一、四、五、三〇〇に比べて英
國品は白無地五合一六、一、五、二〇、三六、栗色五
合八、一〇、九、九八、であつて一般に白色よりも
色物、マヂヨリカを多く要求してゐる様である。

取引狀況 専門輸入商なく雜貨兼業であるか
ら直接取引なく大量商品は特約店を契約し一手
販賣をなす。ボンベ一港第一で全輸入の四割を
占め、ラングーン(硬質陶器)三割、甲谷陀(カ
ップ、ソーサー、ボール)等を陸上す。

セイロン島に輸入された陶磁器は

磁器	一九三三年	一九三四年(一月一〇月)
英	二〇、七〇五留比	一四、二八九留比
獨	三、一七七	四、六一一
日	一七六、五七三	二六〇、五五九

總計 二〇二、七〇四

(陶器)

英 一九三三年 一七八、六二三留比

印 四三、〇八五

獨 三、七六〇

和 五、一一八

日 三〇、二五八

總計 二七三、九八五

一九三二年 一四五、四八四留比

三八、〇〇六

一、〇五二

六、六三一

三〇、六一四

二五、三五八

一九三三年には磁器輸入は日本第一位で約八割を占め、陶器は英國に次いで第二位で一割一分に當つてゐる。

一九三四年では前年に比べて磁器は八萬四千留比増加し約九割を占め絶對優勢である。

(ハ)ペルシヤ

一九三二—一九三三年陶磁器輸入割合は

蘇聯 一四九、七八九 一、五九六、二四五

獨逸 一七、一七〇 三九三、一九六

日本 一六、二七九 二〇六、五二六

(一リアル佛貨約一法
一マン七九二匁)

日本は第三位で進出の餘地が十分ある。

日本輸出陶磁器の動向

八、南洋部

(イ)蘭領印度

貿易狀況 蘭領印度は面積一九〇萬方籽日本全土の三倍弱に當る豐饒の土地で人口六千萬人以上に及び爪哇はその内七割を抱含する稠密な島である。支那人八十萬、歐洲人十七萬、日本人五萬人で他は土人である。砂糖、コブラ、胡椒は世界第一、煙草、ゴムは第二で世界有數な農産林産鑛産に富む原料國であるから、之等を輸出し、工産物は外國より輸入を仰いでゐる。

對外貿易は歐洲大戰が貿易の一大變化を來し戰前(一九一三)に總額十億五千萬盾が戰後(一九二〇)に三十億三千四百萬盾となり約三倍となつたが農産物の下落で深刻なる不景氣のため一九三一年は十億二千九百萬盾に下落し戰前より二二、九%増加すれども一九二〇に比べて三〇%の減少である。

日本との貿易は明治年代の後半から始まり、明治三十年(一八九七)に日蘭通商航海條約が締

結され貿易は逐年増進し、大正二年（一九一三）に四千萬ギルター、大正三年に爪哇の萬國博覽會に出品した日本商品は歐洲大戰のため歐洲品の出場なく一人舞臺となり、深く土人の頭腦に日本品は優良であるといふ事を紹介する好機會となり、又當時日本品以外歐洲より物資の供給不可能で日蘭貿易は非常な勢ひで發展した。

需給狀況 陶磁器工業は原料粗悪のため發達

する見込が少く、外國から供給を受けてゐる。歐洲大戰後特に日本陶磁器は爪哇を中心として年々進出増加し、獨逸致須の二國も戦後工業復興と共に競争の位置に立ちたれども品質の粗悪と日本の地盤が確實なので遂に中止したため日本の陶磁器が自然と市場を獨占せり。然るに日本商品に統制無きため邦商の同志打ちとなり、値下競争が行はれ従つて品質下落しその結果支那商の投賣となつて益々不況に導き、次で濟南事變となつて全く販路杜絶し、一方支那商は日貨排斥運動をなし、自繩自縛に陥り、本邦品は

滯貨し、深刻なる苦境に立ち至つた、蘭商は日貨排斥運動終熄後仲間支那商を経るを廢し、直接日本より輸入と變りしが國內のゴム、砂糖の値下のため不景氣は一層悪化し、市價益暴落し土民の生活は益困難となり従て安價な日本品を求める結果輸入は激増した事は當然である。各國よりの陶磁器輸入狀況は次の如くである。

日本	一九二六年	一九二七年	一九二八年
和蘭	三、五〇、四三盾	四、九四、三四盾	五、二〇、九三盾
獨逸	二六、三五	五三、六五	五二、一九
總合計	四、五九、五七	五、九八、〇四	七、〇〇、三〇七

日本陶磁器輸入は常に首位で全輸入額の七、五割一七、九割を確保し、三年間に一、六倍の増加を示したに反し、獨逸、和蘭兩國共總輸入に對し、漸く一割を保つてゐるに過ぎない慘な有様である。

蘭印政府は日本品の斯の如き洪水に何か對策を行はずに過さんか國內産業の滅亡、和蘭商品の輸入皆無となる結果を恐れ、一九三三年九

月、非常時輸入制限令といふ一種の輸出入獨裁法令で即政府條令を以て一定の商品又は商品グループの蘭印關稅區域内に於けるそれ／＼の場合に定むべき數量或は重量を超過する場合一時之を禁止する旨規定する事を得るといふのを發布し、次いで蘭印政府は關稅改正案を採用する旨を發表し、日本品の防逸を目的としたが日本品の多數が蘭印住民の生活必需品である關係上歐洲品で代用することの不可能の状態にあつてその處分に苦しみたり、要するに安價な商品の獨占的輸入權即輸入割當率を蘭商の手に收めんとするにあつて、サロン割當はその好例である、一九三四年一月關稅引上に決定せり、その内陶磁器に關する分は左の如し。

現行率 從價一割、別に本稅に對し五割の附加稅(從價五歩)
合計從價一割五分

改正率 食器、菓子器、果物盛、酒器等、從價二割

特記せざる磁器

特記せざる陶器

(一)白色 從價一割二分

(一)無色無裝飾のもの 一割二歩

(二)其他 〃 二割

(二)其他

二割

日本輸出陶磁器の動向

別に本稅に對し五割の附加稅
又蘭印政府はサロン、晒綿布割當に相當に苦んだから、多くの商品を一括して過去の輸入高の比率に依り輸入品の半分及 $\frac{2}{3}$ を蘭印の汽船により輸入せしめんとせり。

しかし輸入權の大半が蘭商に渡るも現在の如き取扱數量では輸入元價より二割も損するが如き濫賣の有様で何等得る所は無いから過般來雙方陶磁器業者間に於て陶磁器に關する濫賣防止、輸入を自主的に制限せんとする目的のため輸入統制組合組織を協議せり。

爪哇に於ける輸入陶磁器統計は

年次	金額	日本	和蘭	其他
一九三〇年	七、六一三	內	四、五〇〇	一、五〇〇
一九三一年	四、七六二	〃	五、〇〇〇	一、六〇〇
一九三二年	三、三五五	〃	七、五〇〇	一、〇〇〇
一九三三年	三、二八〇	〃	八、〇〇〇	一、二〇〇

日本は斷然優勢で總輸入額の八割へと躍進し、市場を獨占し和蘭は〇・八割へと轉落せしめられ顔色が無さう。

一九三三年に輸入されし各國の上等陶器、小皿、碗等の内譯は

日本	四、六〇九千打	一、七六七千盾
新嘉坡	九〇	五〇
獨逸	三	四
和蘭	一	二
彼南	〇、四	〇、四
英國	〇、三	一
支那	〇、一	〇、三
總計	四、七〇四	一、八二六

日本、蘭印兩政府間に於て先きに關稅引立の五十六種商品制限問題の解決が付くまで、抜打式及全部を實施せざることを前提條件として日蘭會商を開始せしに蘭印政府は一九三四年七月二十五日突然陶磁器輸入制限をなす旨發布即日實施すると同時に次の如き宣言をなした。

「發布直接原因は最近十四名の日本陶磁器輸入商が非常に出過ぎたる目的の下に組合を設立し、日本に於ける陶磁器輸出組合と密接なる協力を以て組合員に限り輸入を許可し以て蘭印全

體に對する該品の輸入をコントロールせんとせり一部支那商、歐洲商も組合に加入せしめ、輸入陶磁器の割當數量を定め、當領に於ける日本人に依つて決定せんとせり、かゝる計畫の對策を斷行したるのみで一九三三年に於ける輸入數量を基礎として百分の輸入を許可せるものなり」とその制限令の内容を見るに左の如し。
期間及數量、今後三ヶ月間左記數量以上の輸入を禁止す。

統計番號	品 目	輸入許可數量
四三六	右以外の雜品	三三、〇〇打(約七三噸)
四三七	磁器製皿、珈琲皿、野菜鉢類	一、二五、〇〇打(約二、七噸)
四四七	茶一セツト、灰皿、湯呑、トイレット用具及テーブル用器具	四〇、〇〇打(約七噸)
四四八	支那茶碗、スプン付及右以外の粗品	六五、〇〇打(約一、七噸)
合 計		一五、六五三噸

輸入資格 一九三四年一月一日現在當領に於て歐洲人商業組合又は之に類するものと認めら

れた機關に加入するものに對し六割、其他のものに對し四割許可す。

此に於て兩國政府代表が接衝を重ねるも涉らず遂に一九三四年八月三日限り陶磁器積荷禁止を斷行せり、その間積止は完全なる統制の下に行はれ、日本の組合の誠意を披瀝した結果蘭印政府之を認め、八月卅一日限り陶磁器の輸入制限のみ停止し、互譲により爪哇陶磁器輸入組合を解散し、又九月一日より蘭印向積止を解除し、こゝに圓滿なる解決となつた、かゝる紛争の内にも蘭印への陶磁器輸出旺盛を極め、一九三四年は三百十六萬八千圓となり、前年に比べて僅かに五十六萬圓の減少に過ぎなかつた。(未完)

新著紹介

○日本鑛物資料 續第一卷 福地信世 本邦鑛物の形態的研究

研究 伊藤貞市編 四六倍版一四十二五九頁

東京帝國大學理學部鑛物學教室頒布取扱 六月

定價十圓

新著紹介

和田維四郎氏日本鑛物誌再版後十八年になつて其の間の資料は鑛物學專攻家の努力で日に月に集積されてゐる。本書は東京帝國大學鑛物學教室で研究した日本産鑛物の形態に關するものを集輯したもので、之を公刊するに到つたのは昨年物故された本邦鑛物學界の先覺福地信世氏を記念するのと同時に、日本鑛物誌第三版完成への準備とされんとしたものである。編者伊藤貞市氏は東大鑛物學教室を主宰され其の門下には秀才銳士を集められてゐる。こゝに學問と情誼とを兼ね備へた出版を見たのは偶然ではない。まづ本書の幀装を見ると花色紺の落付いたうちにもどこか華かな某調を持つた色布で背には福地信世本邦鑛物の形態的研究と横書されてある。巻頭を飾る故人の英逆和田英作壽伯筆の福地氏肖像が輝いてゐる、之に對して兒玉伯の題簽がある。續いで序として伊藤貞市氏の感激に満ちた日本鑛物誌と福地氏とに對する思慕が美しく書かれてある。内容の一斑を記すると先づ第一に緒論として鑛物形態の研究法が説かれ複圓反射測角器と結晶圖作製の方法が細叙されて居る。以下新進鑛物學者の手に成る日本内地、朝鮮及臺灣の七十六の鑛物の形態に就き新しき描かれた多數の明確な結晶圖と投影圖とを附して詳述され測角データは悉く掲げられてゐる。此の研究の一部は専門雜誌に出されたものもあるが其の原のデータをこゝには書き加へられてあるから後來研究の進められる上に大に役立つものとなつてゐる。卷末には鑛物名索引及産地名索引を附して搜索を便